

地学クラブ 1961 年 2 月以降のプログラム 一覧表

< 旧 館 >

〔 会場：都市センター 〕

回	年	月 日	講演者	講演題目
1	昭和 36	2.4 (土)		
2	1961	3.11 (土)	矢沢大二・佐藤 久	アンデス
3		4.8 (土)	早川正巳	インド・イラン
4		5.13 (土)		
5		6.10 (土)		
6		7.8 (土)		
7		8.12 (土)		
8		9.9 (土)		
9		10.14 (土)	斉藤正次	アイスランド旅行談
10		11.11 (土)	高井冬二	アムッド発掘
11		12.9 (土)	大炊御門経輝	アラビア石油
12	昭和 37	1.13 (土)	竹内常行	地中海沿岸の稲作 (佐藤氏スライド)
13	1962	2.10 (土)	新野弘	
14		3.10 (土)	矢島澄策	日本歴史に示された水銀鉱床
15		4.14 (土)		
16		5.12 (土)	渡辺 光	東南アジア地理学会議
17		6.9 (土)	片山信夫	
18		7.14 (土)	保柳睦美	シルクロードについて
19		8.11 (土)	堀越義一	
20		9.8 (土)	松田亀三	カナダの銅鉱
21		10.13 (土)	小笠原義勝	国際地図学会議
22		11.10 (土)	石和田靖章	イランの石
23		12.8 (土)	中野尊正	
24	昭和 38	1.12 (土)		
25	1963	2.9 (土)	大町四郎	
26		3.9 (土)	小 貞一・橋本 亘・ 佐藤 正	タイ国地質古生物調査旅行談
27		4.13 (土)	渡辺武男 辻村太郎	ソ連旅行談 氷蝕礫
28		5.11 (土)	富田芳郎	掘込式港湾と地域開発
29		6.8 (土)	斉藤正次	ECAFE 地質・鉱物資源会議とフィリピン
30		7.13 (土)	赤瀬川安彦	インド・ゴアの近況
31		8.10 (土)	蔵田延男	日本の水「悪口集」
32		9.14 (土)	別枝篤彦	アジア各地の農村の伝統とその近代化の方向
33		10.12 (土)	川上健三	海洋制度における地学上の問題点
34		11.9 (土)	桐谷文雄	電源ダムについて
35		12.14 (土)	立見辰雄	アフリカの資源
36	昭和 39	1.11 (土)	安芸咬一	東南アジア諸国の開発途上における諸問題
37	1964	2.8 (土)		
38		3.14 (土)	坂本峻雄	砂漠と水資源

回	年	月 日	講演者	講演題目
39		4.11 (土)	中野尊正	防災的見地から見た土地条件の話
40		5.9 (土)	西大二郎	ブラジルの農村
41		6.13 (土)	伊藤和明	アラスカ地震調査隊に同行して
42		7.11 (土)	和達清夫	新潟地震について (森本・須貝・三土氏等補)
43		8.8 (土)	西沢章三郎	東アフリカの鉱業事情
44		9.12 (土)	保柳睦美	シルクロード地帯河川の縮小について
45		11.14 (土)	飯本信之	マダガスカルの自然と人文・地質資源
46		12.12 (土)	尾留川正平	欧米の食物とその地理的背景
47		1.9 (土)	矢沢大二	東アフリカの自然地理
48	1965	2.13 (土)	高井冬二	第2次アムッド発掘
49		3.13 (土)	土屋久郎	オーストラリアの鉱業
50		4.10 (土)		
51		6.12 (土)	岡山俊雄	アメリカ合衆国の地形瞥見
52		7.10 (土)	大久保大	マレーシアおよびカムランの珪砂鉱床をたずねて
53		8.14 (土)	中野尊正	火星の地形について
54		9.11 (土)	村岡 誠	日本の将来の鉄鉱供給地西オーストラリア
55		10.9 (土)	大後美保	現在の韓国
56		12.11 (土)	斉藤正次	カナダの加里鉱床
57	昭和 41	1.8 (土)	岩生周一・平山 健	イランところどころ
58	1966	2.12 (土)	佐藤 久	アンデスの北から南まで
59		3.12 (土)	片山信夫	月に関する最近の知見
60		4.9 (土)	山口岳志	カナダにおける地域構造
61		5.14 (土)	森本良平	松代地方の地質
62		6.11 (土)	川上喜代四	最近の海図と航空図
63		7.9 (土)	江東栄太郎	石灰石について
64		9.10 (土)	木村敏雄	フィリピンの中央構造線と日本の Fossa Magna 等の地質構造の比較
65		10.8 (土)	岩塚守公	IGU ラテンアメリカ地域会議およびメキシコ巡検
66		11.12 (土)	森本良平	その後の松代地震
67	昭和 42	3.11 (土)	福地義憲	ラオスの鉱物資源
68	1967	4.8 (土)	松野久也	チリの航空写真調査
69		6.10 (土)	神山貞二	ウラン資源をめぐる世界情勢
70		7.8 (土)	関口 武	乾いたブラジルとパラグアイ・ボリビアの日本人移住地の問題
71		9.9 (土)	河野義礼	日本の花崗岩の年代
72		10.14 (土)	阪口 豊	山のできかた
73		11.11 (土)	小松 彊	岩手県松川の地熱発電の現況と試錐
74	昭和 43	4.13 (土)	木村敏雄	独乙の古建築の石材と地質の関係
75	1968	5.11 (土)	大村 肇	ネパール調査旅行談
76		6.8 (土)	田島 久	ペルーの水産業
77		7.13 (土)	片山信夫	東京高速道路上に発見された軽石火山
78		9.14 (土)	貝塚爽平・北沢右三	小笠原諸島の地学的・生態学的考察
79		10.12 (土)	井島信五郎	最近の地質調査所の沖縄調査
80		11.9 (土)	森本良平	硫黄島の最近の隆起について

回	年	月 日	講演者	講演題目
81	昭和 44 1969	12.14 (土)	大町北一郎	コンゴの鉱業事情
82		2.8 (土)	鈴木秀夫	エチオピアに暮らして
83		4.12 (土)	坂倉勝彦	ブラジル漫談
84		5.10 (土)	浜田隆士	ソ連地質巡検に参加して
85		7.12 (土)	高須信一郎	最近の人工結晶について
86	昭和 45 1970	9.13 (土)	坊城俊厚	北米合衆国政府機関の海洋地質調査
87		12.13 (土)	安斉俊男	アフガニスタン事情
88		2.14 (土)	湊 秀雄	フッ石を利用した酸素発生装置の開発
89		5.9 (土)	戸谷 洋	地理学徒の見たケニヤ
90		6.13 (土)	小坂丈予	最近の明神礁について
91	昭和 46	7.11 (土)	矢沢大二	チロールを歩く
92		9.12 (土)	野沢秀樹	フランス・ピレネー
93		11.14 (土)	森本良平	ペルーの地震を調査して
94		12.12 (土)	尾崎幸男	カリマンタンの地形調査
95		3.13 (土)	矢嶋澄策	アフガニスタン・イラン南部かけあるき
96	1971	5.8 (土)	町田 洋	火山灰の意味
97		6.12 (土)	貝塚爽平	ペルー・チリの第四紀地殻変動と大地震
98		7.10 (土)	鎮西清高	死海および死海地溝について
99		9.11 (土)	沢村孝之助	トルコとその地質
100		10.9 (土)	阪口 豊	東アルプスと日本の山地
101	昭和 47 1972	11.13 (土)	河村 武	日本における大気汚染
102		12.11 (土)	堀 信行	東アフリカの海岸地形—段丘、珊瑚礁、海面変化
103		1.8 (土)	湊 秀雄	米国の鹹湖においてみられる沸石の産出
104		2.12 (土)	杉村 新	西インド諸島べっ見
105		3.11 (土)	鞠子 正	西部トルコの地質とアンチモン・水銀鉱床について
106		4.8 (土)	岩塚守公	中部アンデスの地形視察
107		5.13 (土)	宮沢俊弥	韓国の地質と鉱床・昔と今
108		6.10 (土)	保柳睦美	伊能図作製の陰の功労者
109		7.8 (土)	中村一明	アイスランドの火山と氷河
110		9.9 (土)	浜田隆士	ノボシビルスクからパミール高原の麓まで
111	昭和 48 1973	10.14 (土)	山本正三	ブラジル視察記
112		11.11 (土)	木村敏雄	皺曲のいろいろ
113		12.9 (土)	安斉俊男	ナイジェリアの錫鉱床
114		1.13 (土)	今井直哉	タイ国螢石鉱床について
115		2.10 (土)	石和田靖章	日本の石油開発事情
116		4.14 (土)	大島 治	デカン高原の地質と風物
117		5.12 (土)	川上喜代四	マラッカ・シンガポール海峡の協同測量
118		6.9 (土)	式 正英	カナダ北極、アクセルハイペルグ島の氷河と地形
119		7.14 (土)	早瀬喜太郎	アルゼンチンの最近の事情
120		9.8 (土)	中村和郎	ナイロビに暮らして
121		10.13 (土)	湊 秀雄	韓国・ブルガリアにおける堆積性沸石の事情
122		11.10 (土)	虎岩達夫	北米、とくにカナダの鉱業事情

回	年	月 日	講演者	講演題目
123		12.8 (土)	岡山俊雄	南太平洋の船旅—ニューカレドニア・フィジー，東サモア，タヒチ等瞥見
124	昭和 49	1.12 (土)	青柳宏一	カナダ東部の地質と風物
125	1974	2.9 (土)	大岩川和正	パレスチナのユダヤ人入植
126		4.13 (土)	湊 秀雄	フランス中部のカオリン鉱床を中心にして
127		5.11 (土)	茂木昭夫	海底俯瞰図に見る日本近海の海底
128		6.8 (土)	篠原邦彦	ペルーの昨今——ペルーの近況と地下資源
129		9.14 (土)	河辺 宏	国連の人口専門家養成
130		10.12 (土)	大島 治	火山噴火に伴う晶出鉱物の化学組成変化
131		11.9 (土)	太田陽子	ニュージーランドの変動地形
132		12.14 (土)	金子美道	最近の地熱開発の動向
133	昭和 50	2.8 (土)	安部喜也	乾燥地域の人々と水
134	1975	3.8 (土)	平山 健	トルコの地下資源事情
135		4.12 (土)	浜 英彦	日本の人口——現在と将来

<地学会館竣工(昭和54年5月1日)後,再開>

[会場:地学会館講堂]

回	年	月 日	講演者	講演題目	<参加者数>
1	昭和 57	4.20 (火)	隅田 実(同和工営)	ボリビアの最近の鉱業事情と風土	16 名
2	1982	5.20 (木)	米倉伸之(東大地理)	ニューヘブリディーズ群島の隆起珊瑚礁	10 名
3		7.20 (火)	金属事業団 16 ミリ映画	あすを拓く鉱物資源, 海を拓く, 白嶺丸	17 名
4		8.20 (金)	阪口 豊(東大地理)	白頭山旅行談	14 名
5		9.20 (月)	高坂晴男(三菱金属)	地球化学探査法と地球化学図	11 名
6		10.20 (水)	池辺 穰(石油資源)	石油開発の現状	18 名
7		12.20 (月)	高橋 博(防災センター)	関東直下型地震の予知情報	29 名
8	昭和 58	1.20 (木)	和達清夫(地学協会)	環境問題について(16 ミリ)	20 名
9	1983	4.20 (水)	橋本好一(動燃)	カナダ, オーストラリア, アフリカ, 中国の現状	17 名
10		5.20 (金)	沢田秀穂 沢田記念館)	最近のタイ国事情	20 名
11		6.20 (月)	水野篤行(地質調査所)	海洋底の熱水鉱床	23 名
12		7.20 (水)	貝塚爽平(都立大理)	硫黄島の段丘と断層	20 名
13		9.20 (火)	矢内桂三(極地研)	北極の隕石探査と氷床	19 名
14		10.20 (木)	伊藤和明(NHK)	キラウエア火山の噴火 1983, 土石流の記録 1983, 三宅島の噴火 1982)(VTR)	25 名
15		12.20 (火)	和達清夫(地学協会)	リモートセンシング(16 ミリ)	22 名
16	昭和 59	1.20 (金)	河辺 宏(人口研)	最近の日本の人口分布と移動	12 名
17	1984	2.20 (月)	武内壽久禰(東大工)	液体包有物	18 名
18		4.20 (金)	梅沢邦臣(海洋科学技術センター)	センターの現状	21 名
19		6.20 (水)	高柳 雄一(NHK)	太陽に環があった	16 名
20		7.20 (水)	松田時彦(東大震研)	活断層——最近の話題	21 名
21		8.2 (月)	朝倉 正(気象庁)	気候変動について	13 名
22		9.20 (木)	高島 清(地調)	モロッコの風土と資源	20 名
23		11.20 (火)	小村幸二郎(地質調査所)	レアメタル資源について	18 名
24		12.20 (木)	伊藤和明(NHK)	岩なだれと火山災害	28 名

回	年	月 日	講演者	講演題目	<参加者数>
25	昭和 60 1985	2.20 (水)	高崎正義・金窪敏和 大竹一彦(国土地理院)	最近の内外の地図学 オーストラリア西部の自然と人文	28 名
26		3.20 (水)	木村敏雄 (東大理)	コノドントと地質構造	24 名
27		5.20 (月)	本島公司(地質調査所)	ケニアの地熱とブラックアフリカ	17 名
28		6.20 (木)	佐々保雄(日韓トンネル)	青函から日韓へ	23 名
29		8.20 (火)	蔵田延男(地下水技術 センター)	中華人民共和国の地下水, 石炭, 工業	24 名
30		9.20 (金)	橋本 亘 (資源コン)	フィリッピン, カラモワ二半島とカンダネス島の地質	18 名
31		11.20 (水)	石原舜三(地質調査所)	華南の金属鉱物資源 <続いて, 和達会長文化勲章受賞を祝う会: 55 名>	38 名
32	昭和 61 1986	12.20 (金)	伊藤 和明 (NHK)	メキシコ地震とコロンビア泥流災害	34 名
33		1.20 (月)	藤井 勲(日本燃料技開) 坂巻幸雄(地質調査所)	ガボンで発見された天然原子炉	24 名
34		2.20 (木)	飯田茂吉 (同和工営)	メキシコの鉱山事情と風土	18 名
35		3.20 (木)	高柳 雄一 (NHK)	ハレー彗星来る	18 名
36		5.20 (火)	野上道男(東京都立大)	南米西部の気候と 1983 年エルニーニョ現象	17 名
37		6.20 (金)	浜野一彦(山梨学院大)	富士山の素顔	27 名
38		8.20 (水)	浜田隆士 (東大教養) 鈴木直樹(東京慈恵医大)	コロモ諸島でのシーラカンス 現地調査 (1981, 83) とその成果	19 名
39		10.20 (月)	富田堅二(国際協力事業団)	マレーシアの風土と産業 (16 mm 映画)	21 名
40		11.20 (木)	下鶴大輔 (東京農大)	ラバウル, ポッツボリ, ロングバレーの 3 異変	18 名
41	昭和 62 1987	12.20 (土)	青木 斌 (東海大)	海底のコバルトクラスト	28 名
42		1.20 (火)	佐野浚一 (川崎地質)	東南アジアの錫花崗岩の物理的性質	20 名
43		2.20 (金)	佐藤 久 (東大)	ボリビアアンデス東山系の新しい火山地形	20 名
44		3.20 (金)	薩摩 晃 (海外ウラン 資源)	ニジェールの風土とウラン資源	23 名
45		4.20 (月)	石原舜三(地質調査所)	最近話題の金鉱床の話	24 名
46		5.20 (水)	中村 一明 (東大)	伊豆大島で何が起きたか	28 名
47		6.20 (土)	村野 徹(動燃事業団)	放射性廃棄物の地層処理	21 名
48		7.20 (月)	小畠郁生 (国立科学 博物館)	恐龍に関する情報	22 名
49		8.20 (木)	高崎 正義 (日本地図 センター)	戦後の国土開発計画	17 名
50		10.20 (火)	星野一男(地質調査所)	石油地下備蓄について	22 名
51	昭和 63	11.20 (金)	小野有五 (北大)	中国青海湖・五台山周辺の周氷河地形について	24 名
52		1.20 (水)	竹林陽一 (新エネル ギー機構)	新しいエネルギーを求めて	24 名
53	1988	2.20 (土)	吉田栄夫(国立極地研)	南極に関する最近の話題	19 名
54		4.20 (水)	池田俊雄(長岡技術大)	沖積層地盤における構造物基礎の問題	22 名
55	1998	5.20 (金)	稲垣益次(諏訪市役所)	諏訪市における温泉供給事業について	20 名
56		6.20 (月)	砂川一郎 (東北大)	ダイヤモンドの天然と合成 - 最近の事情	25 名
57		7.20 (水)	野上道男 (都立大)	南極半島附近の調査から	21 名
58		8.20 (土)	伯野元彦 (東大震研)	地震動による液状化現象	25 名

回	年	月 日	講演者	講演題目	<参加者数>
59		9.20 (火)	徳永重元(パリノサー ベイ)	花粉学から見た地球の歴史	28 名
60		10.20 (木)	青木正博(地質調査所)	金と温泉—青森県恐山を例として	29 名
61	昭和 63	12.20 (火)	溝上 恵(東大震研)	最近の伊豆半島沖地震の実態とその意味	35 名
62	平成元	1.20 (金)	吉野正敏(筑波大)	世界の気候変動と日本の食糧・水・エネルギー	20 名
63	1989	2.20 (月)	松井孝典(東大)	比較惑星学からみた地球の起源と進化	20 名
64		3.20 (月)	盛谷智之(地質調査所)	海底金属鉱物資源研究の最近の動向	22 名
65		4.20 (木)	石和田靖章(資源観 測解析センター)	リモートセンシングの地質学における応用	28 名
66		5.20 (土)	末廣重三(気象庁)	アルメニア地震について	24 名
67		6.20 (火)	相馬秀広(奈良女子大)	中国ローラン遺跡及び周辺の自然環境	25 名
68		7.20 (木)	西川 治(立正大)	世界の地図の中での日本	20 名
69		9.20 (水)	堀田 宏(海洋科学 技術センター)	潜水船による深海調査	19 名
70		10.20 (金)	Eduard Sulstarova (アルバニア)	アルバニアの風土と地震(英語)	17 名
71		11.20 (月)	原田 宏(鹿島建設)	海洋空間利用の実情と将来の動向	27 名
72	平成 2	1.20 (土)	池田 安隆(東大)	トルコにおける活断層調査	23 名
73	1990	2.20 (火)	伊藤 和明(NHK)	サンフランシスコ地震の教訓	23 名
74		3.20 (火)	古在由秀(東京天文台)	天文の話題	23 名
75		4.20 (金)	矢内 桂三(極地研)	南極の隕石を求めて	25 名
76		6.20 (水)	八幡敏雄(元東大)	土壌圏の環境について	16 名
77		7.20 (金)	下鶴大輔(東京農大)	ラバウルの風土と火山	26 名
78		9.20 (木)	増田富士雄(筑波大)	地層や化石中に記録されたリズムの解析	23 名
79		10.20 (土)	大嶋和雄(地質調査所)	東京湾の環境資源	26 名
80		11.20 (火)	服部 仁(地質調査所)	新建材としての岩石	23 名
81		12.20 (木)	伯野元彦(元東大震研)	フィリッピン地震による災害	39 名
82	平成 3	2.20 (水)	坂上澄夫(千葉大)	パラオ島の今と昔	21 名
83	1991	3.20 (水)	不破敬一郎(元国立 公害研)	環境科学と化学	21 名
84		5.20 (月)	林 暉(特殊金属備蓄協)	レアメタル資源の問題	20 名
85		6.20 (木)	宇井 忠英(神戸大)	西インド諸島ブレー火山及びスフリエル火山噴火と災害	30 名
86		9.20 (金)	飯島 紀(松下テク ノリサーチ)	日本人の生い立ち	30 名
87		11.20 (水)	守屋以智雄(金沢大)	カナリア諸島(グランカナリア・テネリフェ)の火山	33 名
88		12.20 (金)	早川正巳(元東海大)	地殻内深部の熱の挙動	
			下鶴大輔(東京農大)	フランス火山学者 Maurice Kraft 氏の遺作ビデオの 紹介と雲仙普賢岳の噴火について	35 名
89	平成 4	1.20 (月)	小屋口剛博(東大震研)	フィリッピンピナツボ火山 1991 年の噴火	24 名
90	1992	2.20 (木)	中島輝允(地質調査所)	モンゴルの鉱物資源と風土	33 名
91		4.20 (月)	村野 徹(エネルギー 総合工研)	高レベル放射性廃棄物処分の最近の動向	27 名

回	年	月 日	講演者	講演題目 <講演要旨掲載：地学雑誌，巻号頁>	<参加者数>
92		5.20 (水)	福田正巳 (北大低温 科研)	ピングとアラス —永久凍土地域の生きている地形—	19 名
93		7.20 (月)	小野寺三朗 (日航気 象グループ)	火山活動と航空機の運航	32 名
94		10.20 (火)	奥田節夫 (岡山理科大)	バイカル湖の自然と国際研究協力の経過	27 名
95		11.20 (金)	川上健三 (外務省)	国境と外交	26 名
96		12.18 (金)	平 啓介 (東大海洋研)	海洋の深層循環	24 名
97	平成 5	1.20 (水)	土 隆一 (元静岡大)	南太平洋の新第三紀イベント	28 名
98	1993	4.20 (火)	野上道男 (都立大)	人工衛星データによる世界の植生分布と気候指標の対応	27 名
99		5.20 (木)	寒川 旭 (地質調査所)	地震考古学 < 102, 7, 895 896 >	23 名
100		7.20 (火)	都司嘉宣 (東大震研)	インドネシアフロレス島の地震津波について	31 名
101		9.20 (月)	玉生志郎 (地質調査所)	トルコの地熱と風土 < 102, 7, 897 898 >	25 名
102		10.20 (水)	石原 透 (日本規格 協会)	環境問題の現状とインド銅鉱山開発における環境影 響調査について < 102, 7, 899 900 >	24 名
103		11.19 (金)	廣井 脩 (東大社会 情報研)	災害と情報	21 名
104	1993	12.20 (月)	萩原幸男 (日大文理)	最近の重力の研究の進展 < 103, 2, 192 193 >	21 名
105	平成 6	1.20 (木)	岩松 暉 (鹿児島大)	1993 年鹿児島豪雨災害 < 103, 2, 194 195 >	21 名
106	1994	4.20 (水)	小嶋 尚 (明治大)	ヤルンツァンポー (ブラマーポトラ) 大屈曲部付近の自然 < 103, 4, 433 434 >	26 名
107		5.20 (金)	渡辺 実町づくり計画研)	ロスアンゼルス地震報告	31 名
108		6.20 (月)	茅根 創 (地質調査所)	珊瑚礁と地球環境変動	27 名
109		7.20 (水)	鈴木弘道 (株)オオバ)	山の高さを測る話 < 103, 5, 595 596 >	24 名
110		9.20 (火)	堀田 宏 (海洋科学 技術センター)	最近の深海研究の進展	26 名
111		10.20 (木)	武田 弘 (東大理)	固体惑星物質に関する最近の研究 < 104, 2, 316 317 >	20 名
112		12.20 (火)	西川 治 (立正大)	近代科学技術の伝播者伊能忠敬—その新たな顕彰に 向けて— < 104, 1, 163 164 >	37 名
113	平成 7	1.20 (金)	山崎 晴雄 (都立大)	伊豆半島北縁プレート境界の第四紀地殻変動と地震	25 名
114	1995	2.20 (月)	浜口 博之 (東北大)	東アフリカ地溝帯のニイラゴンゴ，ニアムラギラの 最近の火山活動 < 104, 4, 625 625 >	35 名
115		3.20 (月)	玉木賢策 (東大海洋研)	日本海の形成テクトニクス	25 名
116		4.20 (木)	内田 欽介 (元住友金 属鉱山 (株))	日本産業発展過程に於ける金属資源の役割—住友・ 別子鉱山の事例として—	31 名
117		5.19 (金)	藤井紀之 (入来カオリン)	地質家の見たトルコ共和国の風土と生い立ち < 104, 5, 793 796 >	25 名
118		6.20 (火)	武藤 正 (元動燃事業団)	エネルギー資源としてのプルトニウム—その裏表— < 104, 6, 904 905 >	26 名
119		7.20 (木)	中田節也 (東大震研)	溶岩ドームの噴火の多様性 < 105, 2, 244 245 >	32 名
120		9.20 (水)	蔵田 延男 (株)測地探水)	伊豆半島の岩盤破碎帯の分布と地下水温泉開発への 活用の経過— < 104, 6, 906 907 > 《地学クラブ第 120 回記念パーティー》	43 名

回	年	月 日	講演者	講演題目 < 講演要旨掲載：地学雑誌，巻号頁 >	< 参加者数 >
121		11.20 (月)	津 宏治 (資源環境観測解析センター)	衛星リモートセンシング技術の動向	30 名
122		12.20 (水)	勝井義雄 (札幌学院大)	昭和新山の誕生と有珠山の活動	28 名
123	平成 8	1.19 (金)	古在由秀 (東京大学)	宇宙の膨張と見えない物質 < 105, 2, 246 247 >	31 名
124	1996	2.20 (水)	山崎俊嗣 (地質調査所)	岩石磁気学と古環境・古気候の研究 < 105, 2, 248 249 >	33 名
125		3.20 (水)	杉山雄一 (地質調査所)	兵庫県南部地震と活断層 < 105, 3, 405 406 >	32 名
126		4.19 (金)	小川勇二郎 (筑波大)	海溝周辺の地形と地質構造 < 105, 3, 407 408 >	29 名
127		5.20 (月)	東 洋一 (福井県立博物館)	手取層群の恐竜ならびにアジアの恐竜群	19 名
128		6.20 (木)	篠原宏志 (地質調査所)	火山ガス放出量が語るマグマの対流—薩摩硫黄島の地下で何が起きているか—	24 名
129		7.19 (金)	武内壽久禰 (大手開発 (株))	中央アジアのウラン資源，特に砂岩型ウラン鉱床について < 105, 5, 666 667 >	19 名
130		9.20 (金)	富樫茂子 (地質調査所)	最近の年代測定法の進歩の概要：イントロダクション < 106, 1, 123 125 >	25 名
131		10.18 (金)	渡辺秀文 (東大震)	伊豆大島火山のマグマ供給システムと噴火活動の予測	28 名
132		11.20 (水)	伊藤谷生 (千葉大理)	低角中央構造線が提起する問題	24 名
133		12.20 (金)	遠藤邦彦 (日大文理)	長江デルタの環境変遷	27 名
134	平成 9	1.20 (月)	岩田修二 (都立大理)	ヒマラヤの氷河活動：ヒマラヤ山脈・チベット高原の氷河作用 < 106, 2, 302 304 >	25 名
135	1997	2.20 (木)	田崎和江 (金沢大理)	バイオミネラリゼーションと地球環境 < 106, 3, 458 460 >	20 名
136		3.19 (水)	野呂春文 (地質調査所) 柴崎亮介 (東大生産技術研)	地質図を計算機で使う GIS と RS を利用した地球環境資源の評価—持続的な地球利用を目指して—	25 名
137		4.18 (金)	笠原順三 (東大地震研究所)	海底地震学の歴史と現状 < 106, 4, 585 587 >	27 名
138		5.20 (火)	新藤静夫 (千葉大環境リモセン研究センター)	砂漠の国の水探し—アラブ首長国連邦での調査から— < 106, 5, 756 759 >	19 名
139		6.20 (金)	西田正憲 (環境庁京都御苑)	異人たちが見た瀬戸内海の風景 < 106, 5, 760 761 > < 台風の日 >	9 名
140		7.18 (金)	大村 纂 (ETH, 東大理)	全球の熱収支に関する新しい方法と知見 < 106, 5, 762 763 >	18 名
141		9.19 (金)	西村 昭 (地質調査所)	海底堆積物と古気候の復元	23 名
142		10.20 (月)	渡邊興亞 (国立極地研究所)	氷床コアが語る過去の気候・環境変動	28 名
143		11.20 (木)	海津正倫 (名古屋大文学部)	ガンジスデルタの地形と高潮災害 < 107, 1, 137 141 >	16 名
144		12.19 (金)	三ヶ田 均 (シュルンベルジェ)	弾性波を用いた地下構造探査における技術と今後の動向 < 107, 2, 308 313 >	30 名
145	平成 10	1.20 (火)	石原舜三 (金属鉱業事業団顧問)	極東ロシアの鉱物資源 < 107, 1, 142 143 >	25 名

回	年	月 日	講演者	講演題目 <講演要旨掲載：地学雑誌，巻号頁>	<参加者数>
146	1998	2.20 (金)	有田正史(地質調査所)	日本の細骨材資源の将来	20 名
147		3.20 (金)	福岡義隆(広島大)	中国の環境問題とエネルギー事情 —酸性雨の長距離輸送— < 107, 4, 601 605 >	19 名
148		4.20 (月)	岡本 隆(愛媛大)	貝殻の形をつくる—軟体動物の殻の理論形態学せん 断破壊スケーリング	14 名
149		5.20 (水)	大中 康譽(東大)	—実験室規模の破損から大地震まで	17 名
150		6.19 (金)	熊木洋太(国土地理院)	新しい測量・地図技術と地学・地理学での利用 < 107, 4, 606 609 >	20 名
151		7.17 (金)	浦辺徹郎(地質調査所)	超高速拡大軸の海底熱水活動—リッジフラックス計画の成果— < 107, 5, 770 772 >	24 名
152		9.18 (金)	西谷 正(九大文学部)	考古学からみた邪馬台国論 < 107, 5, 773 775 >	26 名
153		10.20 (火)	脇田浩二(地質調査所)	インドネシアの白亜紀付加衝突テクトニクス < 107, 6, 914 917 >	19 名
154		11.20 (金)	奥田義久(地質調査所)	メタンハイドレート資源について	22 名
155		12.21 (月)	二瓶直子(国立予防衛生研)	国際寄生虫戦略と地理学との関わり —21 世紀への展望— < 108, 2, 193 196 >	26 名
156	平成 11	1.20 (水)	坂巻幸雄(地質調査所 OB)	モンゴル—その人と大地と資源 < 108, 2, 197 199 >	23 名
157	1999	2.19 (金)	鈴木宏芳(国立防災科技研)	首都圏における深部地質構造と地震活動 < 108, 3, 336 339 >	28 名
158		3.19 (金)	大江守之(慶應義塾大学)	日本と世界の人口予測	31 名
159		4.20 (火)	馬場悠男(国立科学博物館)	モンゴロイドの起源と日本人 < 108, 3, 340 342 >	24 名
160		5.20 (木)	磯崎行雄(東大教養部)	日本列島の起源，進化，そして未来 < 108, 5, 643 649 >	34 名
161		6.18 (金)	大島章一(水路協会)	海底地形調査の歴史と現状 < 109, 3, 474 482 >	21 名
162		7.19 (月)	三上岳彦(都立大)	最近の古気候変動—16 世紀以降の詳細な気候復元	24 名
163		9.20 (月)	小澤智生(名古屋大)	分子系統学—地球科学にとっての新しい手法 < 化石 DNA など >	11 名
164		10.20 (月)	小野 昭(都立大人文学部)	旧石器時代から縄文時代へ	15 名
165		11.19 (金)	徳山英一(東大海洋研究所)	深海活断層探査の最前線—東海沖を例として—	19 名
166		12.20 (月)	金原啓司(地調地殻熱部)	深部地熱資源の調査 < 109, 2, 325 326 >	25 名
167	平成 12	1.20 (木)	久保幸夫(慶應大環境情報学部)	遺跡修復と地理技術—アンコール遺跡を例にして	21 名
168	2000	2.18 (金)	井沢英二(九大工学部)	よみがえる黄金のジパング	27 名
169		3.17 (金)	杉田英明(東大教養学部)	イスラム文化と水時計	28 名
170		4.20 (木)	片平忠實(石油資源開発(株))	石油資源開発の現状と将来 < 109, 3, 483 485 >	24 名
171		6.20 (火)	湯佐泰久(核燃料サイクル機構)	自然から学ぶ高レベル放射性廃棄物処分の智慧—ナチュラルアナログ研究のすすめ < 109, 5, 805 808 >	21 名
172		7.19 (水)	井内美郎(愛媛大理)	琵琶湖・霞ヶ浦・バイカル湖の湖底ボーリング試料から見た環境変動 < 109, 5, 809 815 >	22 名

回	年	月 日	講演者	講演題目 < 講演要旨掲載：地学雑誌，巻号頁 >	< 参加者数 >
173		9.20 (水)	小島圭二 (地圏空間研究所)	地下空間利用と地質工学	26 名
174		11.20 (月)	茂木 睦 (ブータン地質調査所)	ブータンの地形と地質構造 —今までにわかったこと—	25 名
175		12.20 (水)	木下 良 (古代交通研究会会長)	古代日本の計画道路—世界の古代道路とも比較して—	32 名
				< 110, 1, 115 120 >	
176	平成 13	1.19 (金)	宇井忠英 (北海道大学)	有珠山 2000 年噴火—表面現象の推移から噴火機構を 探る—	28 名
				< 110, 2, 285 288 >	
177	2001	2.20 (火)	仲 二郎 (海洋科学技術センター)	ハワイ諸島火山の海底地質	26 名
178		3.19 (月)	今井 登 (地質調査所)	地球化学図による元素解析	19 名
179		4.20 (金)	渡邊興亞 (国立極地研究所)	南極氷床コアから見た気候変動	22 名
180		6.20 (水)	入船徹男 (愛媛大理)	SPring-8 における高圧地球科学の新展開	19 名
				< 110, 5, 746 749 >	
181		7.19 (木)	橋田俊之 (東北大)	超臨界岩体からの地殻エネルギー抽出の可能性	14 名
182		9.20 (木)	小玉喜三郎 (地質調査総合センター)	独立行政法人産業技術総合研究所「地質調査総合セ ンター」独法化と地質調査所の組織改編について—	26 名
				< 111, 1, 134 136 >	
183		11.20 (火)	林 雅雄 (石油公団・石油資源探査センター)	世界の石油産業とパワーポリティックス	19 名
				< 111, 1, 137 140 >	
184		12.20 (木)	土田 滋 (跡見女子大)	言語が消えるとき，何が起ころか	31 名
				< 111, 1, 141 143 >	
185	平成 14	1.18 (金)	河村 雄行 (東工大)	沈み込み帯におけるベントナイト吸水・固化域の役 割—地震発生に関して，原子レベルからの物質過程 の理解のために—	14 名
				< 111, 3, 456 464 >	
186	2002	2.20 (水)	松本 良 (東大)	メタンハイドレート資源と環境問題	27 名
187		3.20 (水)	渡辺秀文 (東大地震研究所)	三宅島火山活動の推移とマグマの動き	24 名
188		4.19 (金)	岩森 光 (東大)	地殻・マントルの水—その循環と火成・変成作用—	22 名
				< 112, 1, 169 170 >	
189		6.20 (木)	立平良三 (元気象庁長官)	富士山レーダーの設置と運用をめぐって	19 名
				< 111, 5, 779 781 >	
190		7.19 (金)	吉田鎮男 (東電設計)	高レベル放射性廃棄物地層処分場選定の考え方	26 名
				< 111, 5, 782 785 >	
191		9.20 (金)	平 朝彦 (海洋科学技術センター)	未踏の海底下深部を目指して —最新鋭掘削船「ちきゅう」の挑戦—	30 名
192		11.19 (火)	荒牧重雄 (東大名誉教授)	富士山噴火予知と火山ハザードマップの考え方	30 名
193		12.20 (金)	西川 治 (東大名誉教授)	榎本武揚の事蹟と開陽丸のルネサンス	32 名
			榎本 隆充 (榎本光学研究所)	榎本武揚の流星刀製作と「流星刀記事」/シベリア横 断旅行と「シベリア日記」	
			石橋藤雄 ((財)開陽丸青少年センター)	徳川幕府最後の軍艦—開陽丸ルネサンス	
				< 112, 3, 450 461 >	

回	年	月 日	講演者	講演題目 < 講演要旨掲載：地学雑誌，巻号頁 >	< 参加者数 >
194	平成 15	1.20 (月)	串田嘉男 (八ヶ岳南麓天文台)	F M 電波観測による地震予報の可能性について	28 名
195	2003	2. 20 (木)	川端僚二 (鹿島建設 JV)	東京湾横断道および外郭放水路建設における高水圧下大口径長距離掘進のブレイクスルー < 112, 3, 462 466 >	16 名
196		3. 20 (木)	香村一夫 (千葉県環境研究センター)	埋立地の地質と地球物理	18 名
197		4. 18 (金)	高村弘毅 (立正大)	タクリマカン沙漠における古代オアシス集落の廃墟化に関する水文学的背景 現在と古代の水文環境	22 名
198		6. 20 (金)	成瀬敏郎 (兵庫教育大)	風成塵・レスからみた最終間氷期以降のモンスーン変動	23 名
199		7. 18 (金)	蔵田延男 (全国地下水利用対策協議会特別顧問)	並列直線の窓から見た日本列島	26 名
200		9. 19 (金)	(1) 増田 富士雄 (京都大学大学院理学研究科) (2) 三上 岳彦 (東京都立大学大学院理学研究科)	第 200 回記念講演会「地球の気候の過去，現在，未来」 「地質時代の気候変動からみた現在」 「過去 1000 年間の気候変動と 21 世紀の気候予測」 < 112, 0, 000 000 > 《地学クラブ第 200 回記念祝賀会》	42 名